

新入生へのメッセージ

経済学部宣教師 李 相勲

新入生の皆さん、今のような思いをもって大学生としての新生活を送ってらっしゃるでしょうか。なかには、新型コロナウイルスのため大学のキャンパスに入ることもできず、何だか大学生になった実感がわからない、という人もいるかもしれません。世界を席卷している新型コロナのため、私たちは不安や悲しみ、恐怖、窮屈さを感じる日々を過ごさざるをえなくさせられています。また、人間存在の脆さをまざまざと見せつけられてもいます。

現在のこのような状況にあって、何か積極的なことや希望を私たちは見いだすことができるでしょうか。あるとすれば、次のような希望ではないかと思えます。今回の危機は、国などの境界線を越え、人類全体が協力し合う道を開く機会ともなりうるとの希望です。このように考える理由は、少なくとも二つあります。一つ目は、今回の事態は、世界が協力し合わなければ解決できない性格のものだということです。ワクチンの開発にしても、一国だけで行なうのではなく、各国が協力して行なう必要があるでしょう。もちろん逆に今回の危機が、特定の国や人々への憎悪を煽ることに利用される危険性もあります。私たちは、そのようになってしまわないよう十分に注意を払う必要があります。

二つ目の理由は、私たちが今回の事態によって経験させられていることと関連しています。私たちは現在、自分自身あるいは自分の周りの大切な人が新型コロナに感染してしまわないだろうかと不安を常に覚え、また行動が制限される中で窮屈な生活を余儀なくされています。私たちの多くにとって、このような経験は初めてのものではないかと思えます。人間の想像力は限られており、他者の不安や痛みに共感することはなかなか難しいものです。世界のあちこちで起こっている戦争や自然災害は、私たちにとっては対岸の火事ではない場合が多くあります。現在私たちが経験している不安は、他者の不安や痛みに共感する想像力を高める働きをすることで、国境を越えた人類の協力をもたらす窓口にもなりうると思うのです。

新約聖書では、このような他者への共感の大切さが、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ 12:15)との言葉で示されています。これは、初期のキリスト教において大きな役割を担ったパウロという人がローマにあった教会に送った手紙の中に出てくる言葉です。この言葉をもってパウロは、世の人々の喜びや悲しみに共感することがキリスト者の生き方として大切であるということを説きました。皆さんは、このような生き方によって築かれていく世界とは、どのようなものであると思われますか。人類愛に満ちた温かみのある世界ではないでしょうか。

この聖書の言葉は、関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service」とも深く関わっています。日本語では「奉仕のための練達」と訳されるスクールモットーが示しているのは、より良い社会の建設のために知識や技術を習得し、それをを用いる精神です。皆さんの場合は、そのような知識のうちの一つは経済学ということになるでしょう。このような精神を実践するためには、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉に示された他者への共感が必要でしょうし、その共感の先には人類全体が協力し合う世界が広がっているのだとい

うことを、関西学院での学生生活の始まりにあたって心に刻んでいただければと思います。

皆さんが入学されたこの 2020 年は今後、人類の歴史における転換点として記憶されていく年となるかもしれません。関西学院での学生生活を通して、「Mastery for Service」の精神をはじめ多くのことを学び、習得しつつ、その転換点を良い方向へと導いていくことに寄与する皆さんであっていただければと願っています。